

名 称	渋谷区青少年体験活動支援センター
所 在 地	〒151-0064 東京都渋谷区上原3-13-8 渋谷区立上原社会教育館内
連 絡 先	TEL : 03-5465-2040 FAX : 03-5465-2040

地域の現況・特色

渋谷区には、20の小学校がありその一つを拠点としている。活動対象地域は、渋谷区代々木三丁目にある渋谷区山谷小学校を中心とした地域である。渋谷区立山谷小学校の生徒数は、現在190名で1年、3年、4年、5年の各学年は1クラスで、2年生と6年生が2クラスになっている。JR代々木駅、新宿駅、小田急線参宮橋駅に近く、渋谷区民であればどこからでも入学できる。

本渋谷区は、東京都の23区の中央に位置し、区内に明治神宮、明治神宮外苑、都立代々木公園、新宿御苑があり、緑豊かな区で「自然、文化、やすらぎの環境共生都市 渋谷」を基本理念としている。夜の人口20万人、昼間の人口55万人といわれている。

各地区の住民の自治活動は活発であり、教育への関心も高く、地域の子どもたちは地域が育て、故郷を愛する健やかな心を持つ人づくりを目指している。

事業の名称、活動概要

名称 さんや・チャレンジ・スクール

学校を事業の拠点とし、家庭(保護者)と、地域(町会、企業、団体)をつなぐ仕組みをつくり、家庭・地域と学校が連携した、人間性を育む豊富な生活体験(職業、文化、ボランティア、教科)や自然体験を提供することによって行っている。事務局は、地域の町会長を代表とし、保護者2名、地域代表者1名、学校職員(校長、副校長)2名、PTA会長、渋谷区体験活動支援センター代表から成る8名体制で活動している。活動を始めて4年になるが、平成18年度は、夏休み以外に月2回一日2講座で30講座、夏休みに15日で30講座、計60講座を行った。今年度は、58講座になる予定である。講座を行う日の設定は、子どもたちが塾などで忙しい時間帯を避けた第2水曜日の午後、第2土曜日の午前中とし、講座時間は90分で連続または1回のトイレ休憩を含めて、120分以上の講座になる場合もあった。講座開催場所は、学校の教室を活用したが、区内の施設への外出も行った。

受講した子どもたちには、スタンプラリーを取り入れ、出席の励みにした。

事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

平成16年度から2学期制導入のモデル校となった渋谷区立山谷小学校、夏休みが1学期の途中になることへの子どもたちへの不安から「さんや・チャレンジ・スクール」が始まった。平成17年度からは、夏休み以外の空いている時間帯として、第2水曜日・第2日曜日が当てられ、もとの学校の要望から年間60講座となる大きなスクール講座となった。講座を組むためには、複数のお世話係が必要となり、学校、地域、行政と話し合いながら選任した。講座内容は、総合学習や学校の授業との違いを考慮し、学校の教室を利用することを主体に講座を組み、講師選定を行った。さらに講師は地域から当事者等の実際に従事している方、活動している方の中から事務局員が選定した。当初は、事務局員の関係からの講師選定のため内容が偏る面もあったが、内容の充実とともに、スポーツ、文化、職業体験、ボランティアと各方面にわたるようになってきた。現在は学校・地域・行政との連携で講師を選定し、講座は、通常学校の教室で行われ、事務局が受講者の募集、講座の実施、準備や片付けを行っている。また、募集のチラシの作成、講師との連絡打合せ、受講者の集計、当日の受付、記録など、事務局に協力している人たちの役割分担が機能し、連携と協働がスムーズに行われている。

事業の内容

① 事前準備として行った取組（企画段階）

平成15年秋、渋谷区立山谷小学校を拠点としたネットワークづくりを推進するため、事務局の体制を作る必要があり、学校関係者や有識者に相談し、代表者として代々木三丁目町会長をお願いした。また、「さんや・チャレンジ・スクール」構想に関りのある校長・副校長、学校に関りの深い保護者で長く学校にいてくれる低学年の保護者の複数の方々にも事務局への参加をお願いした。幸いにも2年生の保護者2名の参加があり、協力内容としては、募集とその集計、当日の受付などの仕事をお願いしている。また、会計の仕事は地域の方に協力をお願いすることができた。講座当日は、2講座に各安全担当者、各指導者、アシスタント、カメラなどの記録係が必要となることから、事務局と保護者の方々からの援助をいただけることとなった。講師との折衝など講座内容については、渋谷区体験活動支援センターが主体となり事務局員全員に講師の選出をお願いするようにしている。この体制は、現在も続いている。

② 活動の展開内容（活動段階）

学校の年度初めである4月からその年の活動日を事務局全員で決めている。学校の行事に影響のないように、また関連した方がよい場合などで日程の調整を行い作成している。

予算について

講座の講師料、事務局員である安全管理者や受付や講座の補助を行うアシスタントなどの交通費、事務費が最低限必要である。各種の助成金を当てて活動している。

講座日程について

放課後と休日で子どもたちが出席しやすい日時を設定するために、学校行事を事前に知り事務局で協議し設定している。具体的には原則として、夏休みは、午前中のプール開放や補習授業の後に1.5時間（14時～15時30分）を、夏休み以外には、月当たり2日を標準として、第2水曜日1.5時間（14時～15時30分）、第2土曜日1.5時間（10時～11時30分）できるだけ各日同時2講座を実施するようにしている。

講座内容について

夏休み講座から開始した「さんや・チャレンジ・スクール」の理念に基づいて、夏休みにはスポーツ以外の講座を行っている。そのため、夏休み以外には、出来るだけスポーツや熱を使う料理教室などを講座としている。

講師について

講師は、事務局員で選定し交渉してお願いしている。地域の講師による「本物体験」ができる講座を行っている。恵まれた渋谷区ならではの特色を生かした講座が参加者に喜ばれている。

参加者募集について

学校の協力によって、全校生徒に講座プログラムを事前に通知する仕組みをつくり、生徒から申込を受けて講座を開催している。夏休み前後、夏休み中の3回と最初の講座の1月前に募集している。

記録について

毎回、デジカメにて講座を記録し、記録集を作成、閲覧に供している。

③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

「さんや・チャレンジ・スクール」事務局は、地域代表（町会長）・保護者・地域の住民・PTA会長・校長・副校長・渋谷区体験活動支援センター代表で構成されているので、連携や協議はスムーズに行われ、お互いの情報や方向性の確認が常にできている。4年前の講座開始に当たって、事務局をどのようにするか、行政や学校側と協議し、講座の特徴は、地域で子どもたちを育成するための地域の組織づくりが重要との意見で町会長を代表とした現在の事務局が出来上がった。しかし、それぞれの個人に掛かる負担が多いことから、今後どのようにマニュアル化できるかが毎年懸念されている。特に強力な支援者である5年生の保護者が後1年で卒業となる。学校を拠点とした子どもの育成を図る組織として、今後機能していくためにはどのように標準化していけばよいのかをまだ模索している。PTA役員会の中や町会の中には「さんや・チャレンジ・スクール」に期待し、担当を作っていたらとばかりの思いが寄せられている。

子どもたちやボランティアの安全面は、行事保険やボランティア保険を助成金で負担している。

事業の成果と今後の課題

できるだけ地域で技能を持った実際に従事している講師をお願いすることに心掛けた。これにより、地域と子どもたちと一体感のある講座になり、事務局員や地域の講師は子どもたちから挨拶されるようになった。さらに、企業からの講師による「本物体験」で、企業には社会貢献担当のあることも知ることができた。今後地域に根ざした講座とするためには、事務局員として町会長、校長、副校長は、大変忙しい方々で打ち合わせの時間が十分に取れないことが多いことから、個人ではなく町会や学校などの組織の中に事務局担当ができることを願っている。

2004.08.26.「ドームでどーも」
後樂園野球場ドーム模型を作る



2005.07.21.「社内マナー」
京王電鉄の運転手さんと車掌さん



2006.07.28.「消防自動車がやってきた」
渋谷消防署代々木出張所 消防自動車見学



2006.11.19.「ユネスコってなに」
インド人からスパイスとインドカレー体験



2007.05.19.「テレビ中継車がやってきた」
日本テレビ中継を実体験



2007.10.17.「和菓子作りに挑戦」
地域の和菓子屋さんから学んだ作品



執筆者職・氏名：渋谷区体験活動支援センター代表

渋谷区立山谷小学校評議委員 倉地 鉄雄

コーディネーターからの一言コメント

人間関係が希薄化している大都会にあって、保護者、町内会、学校関係者、P T A、企業、各種団体等が協力し、子どもたちに「本物」との出会いを大切にしている。多くの人を繋ぐネットワーカーの存在が大きく、その活動に期待したい。

(木村 清一)